

ゆりあげ漁具倉庫の計画及び施工 ～宮城県名取市閑上漁港復興プロジェクト～

1130014 石原 健史

高知工科大学システム工学群建築・都市デザイン専攻

宮城県名取市閑上漁港に漁具の格納、作業ができる漁具倉庫を建設することを目的とする。そのために ship for ship というプロジェクトを立ち上げた。敷地の現状調査と漁師へのヒアリング、行政と建設地の調整を繰り返しながら設計を行い、2012年9月に竣工した。現地への訪問とヒアリングを繰り返した結果、今後求められている支援は、人への支援のとまちの復興の2つの面を満たすものであることが分かった。結果として、ゆりあげ漁具倉庫は人と生業をつなぐものの原点であり、まちの復興の原点でもある。その両方を満たしているものを建設することができた。

Key Words : 計画、施工、支援、復興

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、世界最大級となるマグニチュード9.0のきわめて強い地震となり、その地震に連動した大津波の発生によって、被害は未曾有のものとなっている。

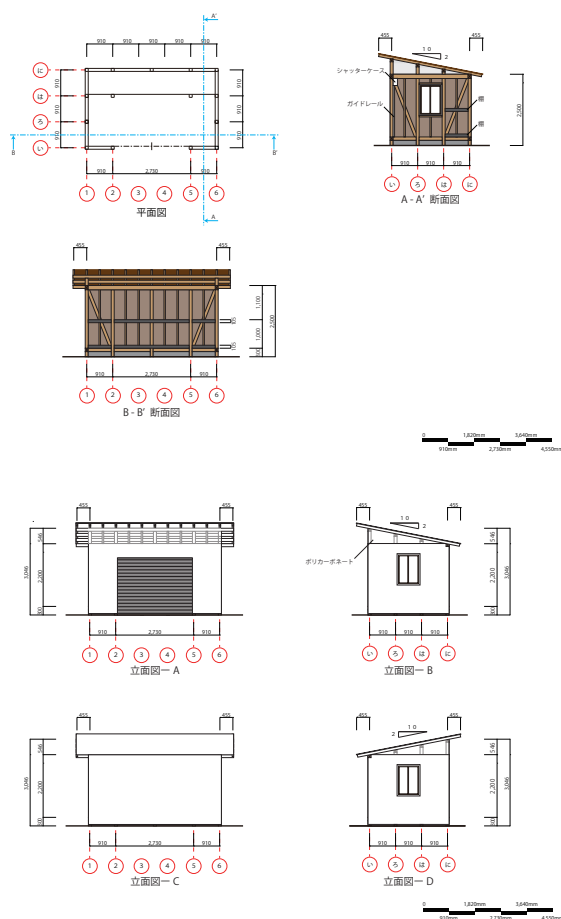
宮城県名取市閑上漁港では、震災後の大規模な港湾整備を計画しているが、生業としての漁師を一日でも早く取り戻すには、漁具を格納し、作業する番屋の確保が緊急課題となっている。しかしながら、漁師個人で建設するには、経済状況等もあり、困窮している現状がある。

そこで、大学生等のボランティアによってプロジェクトを立ち上げ、森林資源が豊富な高知の杉を材料に、漁具倉庫を段階的に建設していく。

このプロジェクトより設計の依頼を受け、漁具倉庫建設までの計画から施工を担当することとなった。

2. 計画

2012年2月と6月、二度の現地訪問と漁師へのヒアリングを繰り返し、漁具倉庫を建設するにあたっての打ち合わせや、敷地調査を行った。



敷地 宮城県名取市閑上5丁目
構造 木造
用途 漁具倉庫
建築面積 12.4215㎡

3. 施工

3.1 スケジュール

日時	内容
9/22(土)	移動 (高知→宮城)
9/23(日)	到着→施工
9/24(月)	施工→竣工
9/25(火)	予備日 移動 (宮城→高知)

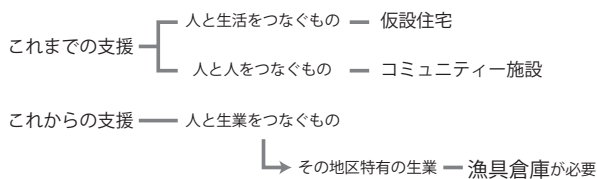
3.2 完成写真



4. まとめ

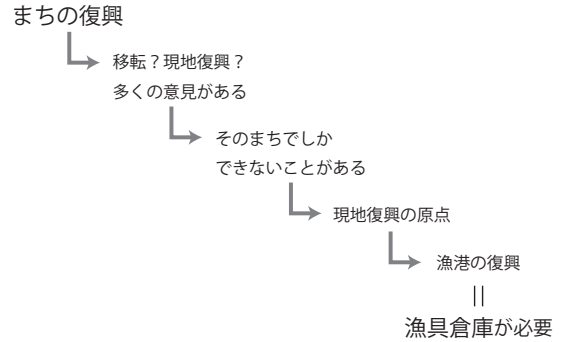
4.1 人と支援の関係

今後必要とされる支援は人と生業をつなぐものである。



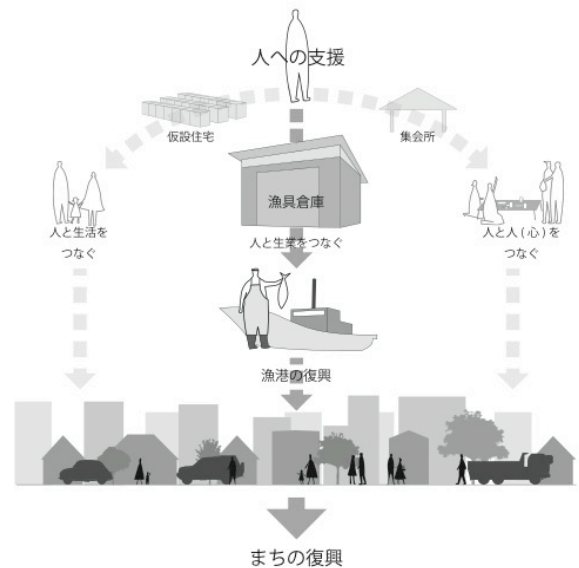
4.2 まちの復興に必要なもの

閑上地区は豊富な海産物が水揚げされる漁港を中心に発展してきた。この街が活気づくためには、漁港の復興が不可欠である。そのためにも漁具倉庫は必要とされている。



4.3 ゆりあげ漁具倉庫の位置づけと今後の支援のありかた

ゆりあげ漁具倉庫は人と生業をつなぐものの原点であり、まちの復興の原点でもある。その両方を満たしているものを建設できたことが一番の成果である。



以上、卒業設計として取り組んだゆりあげ漁具倉庫の計画及び施工を通して、現地への訪問とヒアリングを繰り返した結果、今何が求められているのかを明確に知ることができ、これからの新たな復興支援のあり方が見出すことができた。

人への支援とまちの復興の2つの面を満たすもの、このような支援を継続して行うことが現地復興への近道であるのではないかと私は考える。